

タクロバンの復興支援で会議

04月26日 18時26分



4003563341_20140426220305.mp4

去年11月に台風で壊滅的な被害を受けたフィリピン・レイテ島の主要都市タクロバンの復興に向けた支援策を話し合う会議が26日、タクロバンの姉妹都市である福山市で開かれました。

この会議は、タクロバンの支援策を探ろうと、国際医療ボランティア団体「AMDA」などが開いたもので、支援を続けている福山市の医師会や民間の交流団体の代表者たちが出席しました。

この中で、会議に招かれた「レイテ医師会」の会長を務める医師は、「被災した直後は電気や水もない状況で治療を行う厳しい状況だったが、日本からの医療ボランティアが巡回診療などを行って支えてくれた」と述べ、医療面の継続的な支援を訴えました。

また、福山市の県立福山誠之館高校の生徒の代表は、自分たちで集めた募金で文房具や傘などを購入して、現地を訪れて被災した同世代の若者たちに贈ったことを報告し、「災害の記憶を風化させないようこれからも支援に取り組んでいきたい」と述べました。

「AMDA」の谷佳世さんは「被災地のニーズはさまざま、この会議をきっかけに長期的な支援について多くの人に考えてもらいたい」と話していました。